

学校だより

緑 風

〈いよくふう〉

校訓 継続は力なり

鴻巣市立吹上中学校

学校だより「緑風」は、毎月本校HPに掲載しています。

本校HP <https://fukiage-j-konosu.edumap.jp/>

令和5年10月31日(火) 第7号

いい加減を知る

校長 二瓶 亮

「カリブに眠る～夢たち 目を覚ませ 時が来た～」 「夏の草原に～銀河は高く歌う～」 「あああの町で生まれて 君と出会い～」 「誰にも見せない～泪があった～」 爽やかな秋空の下、11月1日(水)に行われる音楽祭(日本一の感動よ届け～創れ僕らの青春 Story～)に向けて体育館から素敵な学年合唱の歌声、ハンドベルの音色が響いてきます。今年は、4年ぶりに「学年合唱」と「全校合唱」を取り入れた音楽祭を開催する予定で準備を進めています。やはり、学年全体の合唱は迫力が違います。音楽祭当日が楽しみでなりません。吹中生が輝く日になることは間違いないと確信しています。

さて、吹上中には生徒達が学習に、運動に、行事に、部活動にと様々な場面で頑張る姿があります。ここでの経験が今後の生き方、考え方の基礎になり、それぞれの道でさらに自分が理想とする生き方を追求してくれたら、教師にとってこの上ない喜びとなります。思ったこと、考えたことを行動に移して頑張る人の姿は、美しいし、格好いいものです。しかし、頑張りすぎてしまって、かえって悪い結果となることも世の中にはあります。皆さんは次の話から何を感じるでしょうか。

ある剣士(剣道の師範)のもとへ弟子入りを希望する若者がいた。腕前を試したところとても良い筋をしていたので弟子入りが許可された。若者は早速「先生、入門を許されたうちは、一生懸命、修行します。そうしますと、何年くらいで免許皆伝(師匠や先生が、これと見込んだ弟子に技芸・武術などの奥義や極意のすべてを伝授すること)をいただけるでしょうか。」と質問した。先生は「そうだな、お前はなかなかの腕前である。五年くらいで免許皆伝となるだろう」若者は五年という月日に不満を覚えたのか「では、寝食を忘れて修行に打ち込みます。それだと何年で免許皆伝をいただけるでしょう」と質問を続けた。「〇年かかる」と先生は答えた。若者はびっくりした……。

さて、あなたなら先生の答え「〇年かかる」の〇にどんな数字を入れるでしょうか？五よりも小さい数字、五よりも大きい数字を入れる。この二つに分かれるでしょうか。同じ五を入れた人もいるかもしれません。いろいろな視点があってもよいですが、ここでは「五よりも大きい数字」が正解です。一生懸命修行する、寝食を忘れて修行するというのは、良いことのように思える。しかし、先生は、「続けることが何よりも大事であり、無理をすれば続けることが出来ない」ということ、つまり、「いい加減」で続けることの大切さを説いています。

今、取り組んでいる合唱の取組に置き換えてみると、一生懸命声を出しすぎてノドを痛めてしまう。一生懸命やり過ぎるとかえって美しいハーモニーが生まれません。一生懸命やり過ぎて「賞」にこだわってしまうと合唱自体を楽しめない。これでは合唱の良さがなくなってしまう。何事にも「メリハリ(緊張と緩和)」の程よいバランス「いい加減」が大事であることが分かります。学習でも運動でも同じことが言えるでしょう。自分にとって、また、仲間との共同作業においての「いい加減」はどの程度なのか、やってみて経験してみないと分かりません。そこには失敗が付きものだと思いますが、先の読めない変化の激しい社会を、多様性を理解し、柔軟に対応できる見方・考え方が必要とされる社会を生き抜くためには、経験の中から「いい加減」を探し当てて、実行できる力を付けて欲しいと願います。

音楽祭の後も2年生は上野・浅草方面の校外学習、1年生は菅平高原でのスキー教室などの大きな行事が企画されています。本校では、教職員が一丸となって、成功や失敗も含めた体験の積み重ねによって、一人一人の生徒が将来の夢をもつことにつながるような教育活動を進めていきたいと考えます。今後も、保護者の皆様には引き続き御理解、御協力をお願いいたします。